

東京女子医科大学看護学会第7回学術集会 シンポジウム 「実践から探るスペシャリスト活用の知」

感染管理認定看護師として伝えたいこと

中野 聖子（東京女子医科大学東医療センター

エキスパートナース／感染管理認定看護師）

私は、2002年より感染管理看護師（以下、ICNとする）となって活動している。

ICNとなったきっかけは、MRSA対策の看護研究をしたことやリンクナース会等で学んだことで、感染対策に興味を持ち、専門的に活動したいと考えたからだ。学校法人東京女子医科大学の病院において専門分野での活動を認められたエキスパートナースとなり、ICNとしての活動を開始した。ICNとなった当初、MRSAをはじめとする耐性菌による病院感染を防止する等を活動の目標としていたが、今、振り返るとそれは漠然としていた。また、専任で活動するようになった頃より、自分がケアを直接提供出来ず、診療録を通して患者と接する状況に“看護師ではなくなっていく気がする。”という葛藤があった。

ICNとして活動する中で、自分の知識が不足していることを痛感し、2005年に認定看護師教育課程を受講した。認定看護師教育課程において、感染管理の目標は、患者や職員、訪問者を感染から守ること。また、出来る限り経済的効果のある方法で遂行することであると学んだ。この他、感染管理の基礎を学んだことで、ICNとしての活動の目的や役割が明確になった。

現在、認定看護師の分野は21分野となっている。感染管理は他の分野と異なり、医療関連サーベイランスや感染対策のマニュアル作成などを実践とする管理的な活動をする分野である。

私が感染管理認定看護師として活動する中で大切にしていることは、“人と人のつながり、コミュニケーション”、“活動の目的や役割を踏まえ、専門性を發揮すること”、“コンサルテーション（相談）はコンサルティ（依頼者）と出来るだけ直接対応する。”、“必要と判断した対象部署へ行く！”ということである。

管理的な活動が中心だが、看護師だけでなく医師など他職種に対しても近い存在のリソースとして今後も活動していきたい
